

II-5 同和問題

1 目的

これまでから、滋賀県では身元調査を許さない意識を高めるための様々な取組を展開してきました。しかしながら、結婚や就職の際の身元調査につながる戸籍等の不正取得や同和地区の問合せなどがあったことが明らかになっています。ここでは、同和問題の今日的な問題の解決に向けて、地域でどのような行動ができるかを考えましょう。

2 進め方（ワークシート活用例）

ワーク	進め方とファシリテーターの視点
I	1 知らない間に戸籍等の個人情報取得されていたらどう思うかについて、率直な意見を聞いてみましょう。 ★視点1 戸籍等の不正取得による身元調査は誰もが対象となっています。身元調査を許さないことは自分自身の個人情報を守ることであり、全ての人の問題であることを共有します。 2 資料①により、戸籍等の個人情報を売買する事件が起こっていることを確認します。 ★視点2 八業士（弁護士・司法書士・行政書士・土地家屋調査士・税理士・社会保険労務士・弁理士・海事代理士）と呼ばれる資格を持つ人は、職務上の請求用紙により本人の了解なしに戸籍等を取得することができます。このことを悪用して、戸籍等の個人情報が不正に取得される事件が起こっています。 3 資料②をもとに、差別につながる身元調査が行われるのはなぜかを考えます。 ★視点3 資料②より身元調査の背景にある意識について話し合います。意識調査の選択肢から当てはまるものを選んでもらい、その理由を聞きます。 ★視点4 資料②では約8%の人が「当然のことと思う」と答えており、そのような意識が、身元調査がなくなる原因の一つであることを伝えます。 ★視点5 まとめとして、本人の努力や能力とは関係がなく、生まれたところや住んでいるところで人を判断することはあってはならないことを確認します。
II	1 住宅や土地を購入する際、どのような条件を考えるか聞いてみましょう。 ★視点6 「日当たりが良い」「交通の便が良い」「近くに学校がある」など、様々な考えを出し合います。 2 資料③をもとに、同和地区への忌避意識について考えましょう。 ★視点7 資料③より、どのような事がわかるか話し合います。また、意識調査の選択肢から当てはまるものを選んでもらい、その理由を聞きます。 ★視点8 資料③では、30歳代、40歳代で「避ける」割合が高くなっている理由について聞いてみます。実際に住宅を購入すると考えられる世代になると気にする人が多くなることを伝えます。 ★視点9 まとめとして、同和問題を自分の問題として考え、いかに差別をなくす立場で行動できるかが重要であることを確認します。
III	・ 同和問題の解決にむけて、地域や家庭で取り組んでいることやこれから出来ることについて語り合しましょう。 ★視点10 地域や家庭でできることについては、「語り合しましょう!」を参考に話し合います。 ★視点11 県内の市町でも、登録型本人通知制度が始まっています。この制度は、事前登録をしておくと本人以外の者が戸籍等取得した場合には本人に通知するというもので、個人情報の不正取得防止を目的としています。この制度を導入している市町では、制度の利用について様々な案内をしています。事前にパンフレット等を用意し配布します。

3 より深く学ぶために（資料）

「こころのいずみへ」（滋賀県人権施策推進課）